

農家資金と組合金融

小野寺 三 夫

Studies on Farmer's Funds and Agricultural

Co-operation Finance.

Mitsuo ONODERA

1 緒 論

最近農業の近代化、農民の階級分化或は凶作等の問題に関連して、農業金融機構の整備が問題化しているのであるが、かかる問題を理解し、更にはそれを解決するための政策樹立に当つては、まずもつて現在の農村における農業金融機構の実態を把握する必要がある。そのためには種々なる階層の農家が、階層的性格に応じて果しつつある金融機能を明にすることが重要である。そこで宮城県下の水稲単作地帯に属する一部落をとりあげ、その部落を構成する全農家について、個別的に又部落集団としての農業金融の機構を実証的に究明したのである。かかる研究結果の一部は本年報第5巻に発表した。

しかしながらその研究の基礎資料は、本年2月1日に各農家に対する聴取調査によつてえたものであるため、各農家の資金的余裕或は欠乏の状態を十分に把握しえないうらみがあつた。そこで水稲単作農家が最も資金的に涸渇する9月末をえらび、前と同一部落の全戸について、流動資産及び流動負債の現在高の調査をおこなつたのである。本稿はこのようにしてえられた資料に基き、各階層別農家の資金的余裕或は欠乏状態の考察と更にその内容についての究明を、農業金融の主流をなす組合金融との関連の下に試みたものである。

Hという調査部落及びその部落の存在するN村の状況については、本年報第5巻は発表した論文「農業金融の階層的特質」に詳しく報告したところなので、本稿においては論考に必要な限度において若干の点にふれるに止まるであらう。

N村は宮城県北の穀倉地帯、大崎平野の中心部に位する水稲単作農村で水田化率は86.7%に達している。調査対象部落であるH部落はこのN村の南端に所在し、世帯数38戸、そのうち農家と看做しうるものは35戸で、残り3戸は親の家に寄食生活するもの及び耕地を有しない農業労働者である。このようにこの部落は純農村としての性格を有し、又水田化率は85.4%に達するところの所謂典型的な水稲単作農村部落である。

なおこの村は農地改革前には、他町村の寄生地主による地主的土地所有のおこなわれていた村であつて、昭和20年11月における小作地面積は総耕地の66.9%に達し、そのうち65.9%が隣接町村地主の所有下にあつた。農地改革後の現在において、未だに小作地として残されているものは総耕地面積の2.1%にすぎず、いわば自作農群によつて構成されている村ということができよう。

なお階層区分に当つては、まず経営規模を基準に1町歩以下、1～2町歩、2～3町歩、3町歩以上の4区分とし、それぞれD、C、B、A層と称することとした。説明は一応この区分にもとづいて、それぞれの階層の農家の金融機能を究明しつつ、他方それらの階層に介在する異質的な農家も抽出して、その金融機能についても検討を加えるという方法をとつた。

叙述の順序はまず流動資産と流動負債の項において、農家が資金的に涸渇する9月末に、階層的に如何に資金的に欠乏するかということ、かかる場合に農業信用機関としての農協と借入金及び貯金というつながりにおいて、階層的に如何なる結びつきの特性がみられるかについて考察した。

次いでかかる階層的な金融機能の特殊性が如何なる農家によつて生み出されているかについて、A, B, C, D, の各層の農家個々の検討をおこなつた。本来ならば流動資産及び流動負債について、項目毎に詳細に各農家の金融機能を究明し、各階層農家の金融的特性を把握することが妥当であるが、本稿においては紙数の関係上、階層毎の農家について直接検討を加えることにした。

なお前以つて断つておかなければならないのは、流動資産のうち有価証券及び商品としての農産物の手持高を入れなかつたことである。それは有価証券として手持しているのは、殆んど農協への出資証券であつて、この証券は実際には一般の株券のごとく転売されることもなく、又手持している農産物も農家経済が家計と経営と劃然と分けられないため、必ずしも販売されるものとはかぎらず、販売に向けられるか、消費に向けられるかは明確に区分しがたいからである。かかる理由により一般的に流動資産の分類に入るべきものと考えられている有価証券および商品は除外したのである。現物貸借の問題については資金貸借と本質的に類似する性質を有しているので最後の節において總括的に述べることにした。

2 流動資産と流動負債

例年9月といえば水稻単作地帯の農家の端境期であつて、食糧の点からも又資金的にも最も窮屈になる時期である。特に本年は冷害のため一般的に供米がおくれ、資金的にも最も苦しかつた時期である。しかしながら資金の動きとしては、昭和28年産米を基礎とするものであつて、いまだ冷害を反映してはいない。

農家の資金的な余裕の有無は、流動資産額より流動負債額を差引いた金額により知ることができ、第1表によればその差引金額は部落の全農家において56,186円であつて、流動資産の方が流動

第1表 流動資産と流動負債(階層別合計額及比率)(円)

階層	農家戸数	流動資産(A)	流動負債(B)	(A) マイナス(B)	農協貯金(C)	農協の借入金(D)	(C) マイナス(D)	比率(%)				
								農家戸数	流動資産	流動負債	農協貯金	農協の借入金
A	6	788,053	878,461	▲90,408	17,753	525,071	▲507,318	17,2	27,5	30,8	2,7	29,1
	平均	131,342	146,410	▲15,068	2,959	87,512	▲87,553					
B	9	724,223	742,901	▲18,678	408,823	595,401	▲186,578	25,7	25,3	26,1	62,1	33,0
	平均	80,469	82,944	▲2,475	45,425	66,156	▲20,731					
C	12	641,498	906,190	▲264,692	224,898	497,610	▲272,712	34,3	22,1	31,8	34,1	27,6
	平均	53,458	75,516	▲22,058	18,742	41,468	▲22,726					
D	8	749,673	346,709	402,964	6,623	184,849	▲178,226	22,8	25,1	11,3	0,1	10,3
	平均	93,709	43,339	50,370	828	23,107	▲22,279					
總計	35	2,903,447	2,847,261	56,186	658,097	1,802,931	▲1,144,834	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0
總平均		82,957	82,122	835	18,803	51,512	▲32,709					

(註) 1 階層A, B, C, Dはそれぞれ經營耕地反別による区分を示しAは3町歩以上, Bは2町歩~3町歩, Cは1町歩~2町歩, Dは1町歩以下を示す。
2 流動資産の内容は農協當座預金, 同定期預金, 個人貸付金, 未收金, 現金。

3 流動負債の内容は農協一般資金, 農業手形資金, 有畜農家創設資金, 銀行資金, 個人資金等の借入金及び未拂金。
4 ▲印はマイナス(赤字)を示す
5 上表は宮城県N村H部落における昭和28年9月80日の現在額を示す。以下各表同じ。

負債よりも多くなっているのであるが、それを各階層別にみると、流動資産が流動負債より多いのはわずかにD層のみであつて、その他A, B, Cといった経営規模1町歩以上の階層はすべて流動負債が流動資産よりも大きい。

それが総額において若干でも流動資産の方が多くなっているのは、結局D層における流動資産がその流動負債よりも402,946円も多いためであつて、その金額が他の階層の赤字をぬりつぶしてしまうのである。それ故D層の第2種兼業農家を除けば、部落農家全体としては赤字となる。

資金的な余裕の有無をこの流動資産より流動負債を差引いた金額でみてみると、1戸当り平均額で赤字の最も小さいのは2,475円のB層であり次がA, C層となる。すなわち階層別でいえばD, B, A, Cの順に次第に資金的余裕がないことになり、即ちD層をのぞけば経営面積の大小に比例しているといふことができる。

ところでかかる傾向は部落民の農業協同組合に対する貸借の関係においてもみられるかといへば左様ではない。第1表のごとく農協貯金より農協よりの借入金を差引いた金額はすべて赤字であり、当然総額において赤字を示している。そしてこの赤字額は1戸当り平均額をみると最高はA層の87,553円であり、次がC層の22,726円、D層の22,279円、B層の20,731円となつている。D層がさきに黒字でありながら、こんどは赤字であるのは、農協よりの借入金が184,849円であつて、この階層の流動負債額749,673円の53.1%であるのに対して、農協貯金は僅かに6,623円にすぎず、この階層の流動負債額346,704円の0.9%にしかならないからである。

結局このことはD層農家は流動資産として有する資産のうち殆んど農協に貯金をおこなわないのに反し、資金借入の必要に際しては借入額の半額も農協に依存していることを示すものである。すなわち資金逼迫の9月末日において、D層農家は農協に対する預金者としてでなく、農協よりの借主、すなわち農協資金の単なる利用者として立現れ、自己所有の流動資産は他の方面に利用していることになる。これは階層別の比率に明瞭に現れているところであつて、この階層の有する流動資産は全農家の流動資産額の25.1%であり、流動負債は11.3%であるのに対し、農協貯金は部落農家の所有する農協貯金総額の0.1%、農協よりの借入金は10.3%を占めているのである。

流動資産より流動負債を差引いた金額の1戸当平均赤字額が15,068円であつたA層農家は農協貯金より農協よりの借入金を差引いた全額で87,553円もの赤字額を示している。すなわちこれだけA層農家が農協よりの借越になつているのである。このこともやはりD層と同じく農協に対する関係が農協資金の利用ということにあつて、預貯金者としての性格の薄いことを物語るものである。このことはA層農家が自己の流動資産のうち、わずか2, 3%を農協貯金となしているのに反し、農協よりの借入金は流動負債総額の58.4%であることにも現れている。

次に流動資産より流動負債の差引額が赤字2,475円であるのに、農協貯金より農協よりの借入金が赤字、すなわち農協に対する借越が20,731円にも達しているのはB層である、このことはやはりA, D層と同様農協を資金借入機関として利用する度合いが強いことを示すものである。しかしながらこの階層の特徴的な点は総農家の農協貯金額の62.1%にも達する貯金額を有している点であつて、資金借入機関として農協を利用する度合いは強くとも、反面他の階層に比して農協を貯蓄機関としても活用していることを知るのである。但し總体的にかかる傾向を示している理由の一つは、後述するように1戸で定期貯金350,000円を有する農家がこの階層の中に存在することによるものである。

C層においては他の階層と異り流動資産より流動負債を差引いた金額も、農協貯金より農協よりの借入金を差引いた金額も、何れも赤字20,000円台であつてそれ程の差異はない。しかしながらそれでも農協を資金の蓄積機関としてよりは、借入機関として利用している傾向がみられるのであつ

て、流動資産のうち農協貯金は35.1%であるのに対し、流動負債のうち54.9%は農協よりの借入にまつているのである。

以上要するに流動資産、流動負債及び農協貯金、農協よりの借入金を比較対照することによつて、この部落における資金の逼迫状態が、階層的な差異を示しながらも、一般的に甚だしいことを知るのである。そして農業金融機関として主流に立つ農協は、一般的に資金蓄積機関というよりは資金借入機関として利用される傾向が強いのである。農家の端境期におけるかかる金融現象は、農協貯金が所得貯金としての性格を持つことと照応する。

かくの如き階層的な金融現象を理解するためには、更に各階層を構成する個々の農家の金融機能を分析しなければならない。

3 各階層農家の資金状態

a. A層農家 この階層の農家は流動資産の一戸当平均額においてはるかに他の階層に優つてゐる。しかし他面流動負債も大きく若干ながら流動資産額を越している。この流動資産マイナス流動負債の金額を赤字にしているものは、この階層に属する6戸の農家の内容について検討してみると3, 4, 5の各号の農家である。3号農家は流動資産及び流動負債何れも多額であるが、これはこの農家が兼業として牛馬商を営んでいることによるものである。

第2表 流動資産と流動負債

階層	農家番號	流動資産(A)	流動負債(B)	(A) マイナス(B)	農協貯金(C)	農協の借入金(D)	(C) マイナス(D)	(B)/(A) %	(D)/(C) %	(C)/(A)	(D)/(B)
A	1	116,617	93,250	49,367	1,617	70,250	▲68,633	80.0	4,344.5	1.4	75.3
	2	182,820	68,510	114,310	2,820	68,510	▲65,690	37.5	2,429.4	1.5	100.0
	3	348,253	420,686	▲72,433	1,253	120,686	▲119,433	120.8	9,630.3	0.4	28.7
	4	48,554	140,049	▲91,495	2,054	120,049	▲137,995	288.4	5,844.6	4.2	85.7
	5	26,800	96,756	▲69,956	10,000	96,366	▲86,366	361.0	963.7	3.7	99.6
	6	65,009	49,210	15,799	9	-49,210	▲49,201	75.7	546,777.8	0.0001	100.0
	平均	131,342	146,410	▲15,068	2,959	87,512	▲84,553	111.5	2,957.6	2.3	58.4
B	7	359,939	—	359,939	359,939	—	359,939	—	—	100.0	—
	8	222,273	143,020	79,253	2,278	103,020	▲100,747	64.3	4,532.3	1.0	72.0
	9	2,134	135,777	133,643	1,134	132,277	▲131,143	6,353.3	11,664.6	53.1	97.4
	10	15,477	51,120	▲35,643	477	41,120	▲40,643	330.3	8,620.5	3.1	80.4
	11	12,918	154,259	▲141,341	918	104,259	▲103,341	1,194.1	11,357.2	7.1	67.6
	12	32,914	10,000	22,914	30,914	10,000	20,914	30.4	32.3	93.9	100.0
	13	42,184	36,620	5,564	10,184	36,620	▲26,436	86.8	3,595.8	24.1	100.0
	14	11,420	153,385	▲141,965	1,420	113,385	▲111,965	1,343.1	7,984.8	12.4	73.9
	15	14,964	58,720	▲43,756	1,564	54,720	▲53,156	392.4	3,498.7	10.5	93.2
	平均	80,469	82,944	▲2,475	45,425	66,156	▲20,731	103.0	145.6	56.5	70.7

	16	283,000	300,000	▲17,000	—	—	—	106.0	—	—	—
	17	80,972	29,210	51,762	75,472	22,210	53,262	36.1	29.4	93.2	76.0
	18	3,879	101,880	▲97,983	897	91,880	▲90,983	2,614.8	10,243.0	23.0	90.2
	19	1,152	43,140	▲41,988	152	17,840	▲17,688	3,744.8	11,736.8	13.2	41.4
	20	131,290	19,060	112,230	130,290	19,060	111,230	14.5	15.0	99.2	100.0
C	21	9,619	27,705	▲18,086	619	27,705	▲27,086	288.0	4,490.3	6.4	100.0
	22	99,000	55,000	44,000	—	—	—	55.6	—	—	—
	23	3,471	43,928	▲40,457	417	41,928	▲41,457	1,265.6	10,054.7	12.0	95.4
	24	3,742	91,304	▲87,562	742	91,304	▲90,562	2,440.0	12,305.1	19.8	100.0
	25	23,005	38,764	▲15,758	15,006	37,884	▲22,878	168.4	252.5	65.2	97.7
	25	1,005	59,770	▲58,765	905	51,370	▲50,455	5,947.3	5,676.2	90.0	85.9
	27	1,398	96,429	▲95,031	398	96,429	▲71,031	6,897.6	24,228.3	28.4	100.0
	平均	53,458	75,516	▲22,058	18,742	41,458	▲22,725	141.3	221.3	35.1	54.9
D	28	3,305	80,670	▲77,355	1,305	50,670	▲49,355	2,440.8	3,882.8	39.3	62.8
	29	1,045	14,034	▲12,989	45	14,034	▲13,989	1,343.0	31,185.6	4.3	100.0
	30	1,050	25,970	▲24,920	920	25,510	▲24,590	2,473.8	2,772.8	87.6	98.2
	31	108,875	44,765	64,110	1,375	34,765	▲33,390	41.1	2,528.4	1.3	77.7
	32	559	9,580	▲9,021	539	8,180	▲7,641	1,713.8	1,517.6	96.4	—
	33	1,210	11,770	▲10,550	1,010	11,770	▲10,760	9,727.8	1,165.3	83.5	100.0
	34	101,335	35,420	64,916	1,335	35,420	▲35,084	35.9	2,725.0	1.3	100.0
	35	532,293	123,500	408,793	93	3,500	▲3,407	23.2	3,763.4	0.0001	2.8
	平均	93,709	43,339	50,370	828	23,107	▲22,279	45.3	2,790.7	0.9	53.3
	總平均	82,957	82,122	835	18,803	51,512	▲32,709	99.0	274	22.7	62.7

(註) 流動資産、流動負債及び▲の内容は第1表と同じ。

1, 2, 6の各号の農家は黒字であり、特に2号農家は114,310円もの黒字を出している。2号農家の主人は村内の有力な公職の地位についている。

ところが農協に対する信用関係においては、この階層の全戸が借越であつて、かかる現象を生ずる理由はいずれかといへば、農協貯金の側にあるのであつて、すなわち5号農家の10,000円を除けばすべて3,000円以下であつて、特に6号農家のごときは皆無に等しい。かくて流動資産中にしめる農協貯金の比率は最高が4号農家の4.2%、最低は6号農家の0.0001%、平均は2.3%というごとく極めて低率である。農協よりの借入金は流動負債の半額をわずかに越す程度であつて、比率的には他の階層に比し高いとはいへないのであるけれども、それでも貯金額の絶対額の零細なことが農協貯金より農協よりの借入金を差引いた額を赤字にしているのである。

流動資産のうち農協貯金のしめる比率が低いとなれば、果してその流動資産は如何なる形態をとつてA層農家の手に握られているのであろうか。第3表によりまず各項目別にA層農家の合計額をみてみよう。個人貸付金が344,000円で流動資産の43.7%に達していることが注目される。この金

額は預貯金額よりも僅かながら多い。この個人貸付金の多いことはこの階層の特徴的な金融機能である。この階層による個人貸付金は部落全体の個人貸付額の55.2%に達する。しかもこの個人貸付金は広く各農家すべてが有しているところであつて、2号農家のごときは160,000円もの個人貸付をおこなつている。

第3表 A層農家の資金状況(圓)

農家番 項目	1	2	3	4	5	6	計	平均
流動資産	116,617	182,820	348,253	48,554	26,800	65,009	788,053	131,342
農協貯金	1,617	2,820	1,253	2,054	10,000	9	17,753	2,959
郵便貯金	45,000	—	25,000	2,000	—	—	72,000	12,000
銀行貯金	—	—	250,000	—	—	—	250,000	41,667
その他	—	—	—	—	—	—	—	—
小計	46,617	2,820	276,253	4,054	10,000	9	339,753	56,626
個人貸付金	50,000	160,000	17,000	42,000	15,000	60,000	344,000	57,333
未収金	—	—	45,000	—	—	—	45,000	7,500
現金	20,000	20,000	10,000	2,500	1,800	5,000	59,300	9,883
流動負債	93,250	68,510	420,686	140,049	96,756	49,210	878,461	146,410
一般資金	50,000	30,000	50,000	61,180	30,000	—	221,180	36,863
農協よりの借入金	15,250	38,510	70,686	58,869	66,366	49,210	298,891	49,815
農業手形	—	—	—	—	—	—	—	—
有畜農家	5,000	—	—	—	—	—	5,000	833
創設資金	—	—	—	—	—	—	—	—
小計	70,250	68,510	120,686	120,049	96,366	49,210	525,071	87,512
銀行よりの借入金	—	—	250,000	—	—	—	250,000	41,667
個人借入金	—	—	50,000	20,000	—	—	70,000	11,667
未拂金	23,000	—	—	—	390	—	23,390	3,898

これら個人貸付金の内容をみれば、件数は1号農家1件、2号農家3件、3号農家1件、4号農家3件、5号農家4件、6号農家1件、計13件に及んでおり、期限は殆んど1ヶ年以内、金利は1号農家の年2割、8号農家の年1割4件のみがきめられているだけで、そのほかは全然借主にまかせるか、あるいは表面上金利なしということになつている。しかし実際に借主は金利としてではなくとも、貨幣あるいは商品で謝礼するのが習慣である。

借主との関係は親戚関係と単なる知人という関係がややなかばしている。借主の借入理由は5件が商業資金として利用せられ、その他は生活費、医療費、学費等であるが、この後者の理由で貸出される資金が労賃の前金等の形態で、労働関係のある農家に貸出されているという事実は注目に値するところである。

かくの如く貸出される資金が商業資金、生活資金に使用せられて、農業生産の為の資産として直接的に利用せられざる事実は興味がある。勿論農家は家計と経営とが明瞭に区分せられず、自家労働力が農業生産の支柱をなしている以上、生活資金として農家に貸出される資金も一応生産的な役割を間接的に果しているといえないわけではないが、その件数は4件、金額は39,000円にすぎな

い。
 以上により農村における資金は、上層農家の手を通じて農業外部面に流されていること、しかもこれらの資金は農村において最も資金的に逼迫する時期においてもなお貸出されていることを知るのである。しかし他方において他の農家に対する貸出しを、雇傭関係のある農家におこなっていることは富農層としてもう一つの金融的特徴を示すものである。即ち富農層としてのA層の個人貸付はかかる二つの特殊な機能を果しているのである。

預貯金についてみると銀行預金は兼業として家畜商を営む3号農家が250,000円を有するだけであつて、これはその農家の事業運営上の必要に基くものであり、他面同額の銀行借入をおこなっているのである。郵便貯金は3戸の農家がおこない、農協貯金はすべての農家が有するがその金額は零細である。未収金は3号農家の兼業に基くものだけである。

この階層においては流動負債の金額が他の階層に比して大きく、1戸当り146,410円に達しているのであつて、最高は3号農家の420,686円であり、この金額は他の農家の金額をはるかに越すものであるが、結局この階層の流動負債総額を高くつりあげている一因はそこにある。

流動負債額の58.4%は農協よりの借入金であり、その借入金のうち56.9%は農業手形資金、42.1%は一般資金であつて残りが有畜農家創設資金である。このように農業手形の利用は極めて高く、全農家が多かれ小かれ何れも利用している。借入理由は他の階層と同様すべて肥料購入資金としてである。

一般資金の借入も6号農家が行わないのみで一般的に利用されている。借入理由は農業資金、商業資金、婚礼費及び日雇労賃支払等であつて、直接的な使用目的としては生産的な性格が強い。有畜農家創設資金は1号農家により綿羊購入の為使用されている。

銀行よりの借入は3号農家が250,000円の借入をおこなっているのみであつて、さきに述ぶるが如く他方において同額の銀行預金を有していることと対応するものである。この金額がA層農家の流動負債を高くしている一因である。

個人借入件数は3件にすぎず金額もわずか70,000円である。借入理由は商業及び農業資金であつて消費的なものはない。貸金との関係は知人1件、親戚2件、借入先は農家2件、非農家1件である。

結局A層農家の種々の資金の借入理由をみると、一般的に農業資金及び兼業資金としてであつて、直接的に消費的目的を有するものは小さい。そして流動資産の場合と同様流動負債総額を特に高くしている理由として、兼業農家による銀行資金の利用という点があげられる。

b. B層農家 流動資産より流動負債を差引いた金額が赤字になるのはこの階層も同様である。これを第4表より個々の農家についてみると赤字農家は4戸、黒字農家は5戸であつて、この黒字農家のうちには7号農家のごとく369,939円もの黒字を出している農家も存在するのであるが、やはり階層計において赤字となつているのは、赤字農家の赤字額が相対的に大きいためである。

農協に対する関係では階層合計において農協よりの借越となつており、個々の農家についてみると僅か2戸のみが貸越となつているにすぎない。流動資産中にしめる農協貯金の比率は56.5%であるのに、流動負債中にしめる農協よりの借入金の比率は70.7%に達するのであり、資金借入は大部分農協に依存し、農協を資金借入機関として利用する傾向の強いことを示している。

流動資産の中預貯金の占める比率は57.3%、個人貸付金のそれは33.1%となる。預貯金のうち98.5%は農協貯金であり、農家資金の逼迫期に当つては農協を資金借入機関として利用する傾向は強いとはいいいながらも、他面A層などよりは資金蓄積機関としても相当に利用していることを物語るものである。ただ注意しなければならないのは7号農家の農協貯金369,939円であつて、これがB層の預貯金金額の約半額に達することである。この金額のうち350,000円は定期貯金である。こ

の農家を除いた他の農家の預貯金最高額は30,914円で、次が3号農家の10,184円でその他はすべて1,600円未済である。

個人貸付金は2戸がおこなっているにすぎず、ただそのうちの1戸のそれは210,000円に達することは注目される。この金額はこの階層の個人貸付額、惹いては流動資産額も大きくしているといふことができる。結局この階層の資金状態をみると7号農家、8号農家が莫大な預貯金或は個人貸付金を有することによつて始めてこの階層の流動資産額を大ならしめているといふことができる。

第4表 B層農家の資金状況（円）

農家番号 項目	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計	平均
流動資産	359,939	222,273	2,134	15,477	12,918	32,914	42,184	11,420	14,964	724,223	80,469
農協貯金	359,939	2,273	1,134	477	918	30,914	10,184	1,420	1,554	408,823	45,425
郵便貯金	—	—	—	—	2,000	—	—	—	—	—	—
銀行貯金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	4,400	—	—
小計	359,939	2,273	1,134	477	2,918	30,914	10,184	1,420	5,964	415,223	46,135
個人貸付金	—	210,000	—	—	—	—	30,000	—	—	240,000	26,667
未収金	—	10,000	—	—	—	—	—	—	4,000	14,000	1,556
現金	10,000	?	1,000	15,000	10,000	2,000	2,000	10,000	5,000	55,000	6,111
流動負債	—	143,020	135,777	51,120	154,259	10,000	35,620	153,385	58,720	742,901	82,944
農協よりの借入金	—	50,000	85,075	—	42,480	10,000	—	73,420	3,710	254,685	29,410
農業手形	—	53,020	47,202	41,120	61,779	—	35,620	39,965	51,010	330,716	35,746
畜産家 創設資金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小計	—	103,020	132,277	41,120	104,259	10,000	35,620	113,385	54,720	595,401	66,156
銀行よりの借入金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
個人借入金	—	20,000	—	10,000	50,000	—	—	40,000	—	120,000	13,333
未拂金	—	20,000	3,500	—	—	?	—	—	4,000	27,500	3,055

8号農家は4件に分けて個人貸付を行つていたのであつて、借主は姻戚関係のものが多く、その用途は直接的にはすべて農業以外のものであり、金利は年1割である。13号農家の貸付は姉に対するものであつて、事業資金として利用されている。結局この階層において流動資産の33.1%をしめる個人貸付金は農業以外の分野に流されている。

次に流動負債についてであるが、これは流動資産の場合と異り130,000円以上もの流動負債を有している農家が4戸もあり一般化している。この流動負債742,901円の支柱をなすものは農協よりの借入金であつて次が個人借入金である。

農協よりの借入金の内訳をみると54.0%は農業手形によるものであり残りは一般資金に依存している訳である。農業手形資金及び一般資金の借入をおこなわない農家はそれぞれ2戸及び3戸にすぎない。但し一般資金の借入額は農業手形と異り農家間に相当の差が存在する。その借入理由は貸金1件、家計費3件、作付資金1件であつて、A層農家とは異り消費的傾向が強い。

個人借入金は1ヶ年未満のものが多く、借入先は親戚3戸、知人2戸となつている。費途は貸金家計費、住宅建築費である。この階層の農家はA層と異り、農協一般資金、個人借入金何れも直接的には消費的目的のものが多い。

c) C層農家 この階層も又A、B層と同様流動資産より流動負債を差引いたものは赤字となつている。これを第5表により農家個々についてみると赤字9戸に対し黒字は3戸にすぎない。そして黒字とはいつてもB層のごとく莫大なる黒字額を示している農家は存在しない。

但しこの階層の16号及び22号農家は流動資産額においても高額を示しているのであるが、この2戸の農家はそれぞれ旧地主で、現在は肥料商及び米穀商を営み、雇傭労働量も大であつて、単に経営面積の点からこの階層に属せしめ、他の農家と同一に取扱うことは妥当でない。16号農家の300,000円という巨額な流動負債もその兼業に基くものである。これら2戸の農家は農協とは信用上の関係を結んでいない。

流動資産マイナス流動負債で赤字を示す農家はすべて農協との関係も借越になつており、17号及び20号農家を除く他の農家は借越である。流動資産の内容をみると16号農家においては銀行貯金、未収金、22号農家は郵便貯金、銀行預金、個人貸付金、未収金等の形態をとつている。この2戸の第二種兼業農家を除いて他の農家の流動資産の内容は農協貯金及び現金であつて、特に農協貯金の一般的な零細性が注目される。現金額も亦小さく従つてこれらの流動資産そのものの貧弱さが流動資産マイナス流動負債を赤字にしている大きな原因であると考えられる。

第5表 C層農家の資金状況 (円)

農家番号 項目	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	計	平均	
流動資産	283,000	80,972	3,897	1,152	131,290	9,619	99,000	3,471	3,742	23,006	1,005	1,398	641,498	53,458	
預貯金	農協貯金	—	75,472	897	152	130,290	619	—	417	742	15,006	905	398	224,898	18,742
	郵便貯金	—	—	—	—	—	35,000	—	—	—	—	—	—	35,000	2,917
	銀行貯金	130,000	—	—	—	—	10,000	—	—	—	—	—	—	140,000	11,667
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小計	130,000	75,472	897	152	130,290	619	45,000	417	742	15,006	905	398	399,898	33,325
個人貸付金	—	—	—	—	—	5,000	34,500	—	—	—	—	—	—	39,500	3,292
未収金	150,000	4,500	—	—	—	—	15,000	—	—	—	—	—	—	169,500	14,125
現金	3,000	1,000	3,000	1,000	1,000	4,000	4,500	3,000	3,000	8,000	100	1,000	32,600	2,717	
流動負債	300,000	29,210	101,880	43,140	19,060	27,705	55,000	43,928	91,304	38,764	59,770	96,429	906,190	75,516	
農協 借入 の金	一般資金	—	—	67,710	1,300	—	3,725	—	20,000	71,200	550	31,480	49,375	245,340	2,445
	農業手形	—	22,210	24,170	16,540	19,060	23,980	—	21,928	20,104	12,334	19,890	22,054	232,270	16,856
	有畜農家 創設資金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25,000	—	25,000	50,000	4,167
	小計	—	22,210	91,880	17,840	19,060	27,705	—	41,928	91,304	37,884	51,370	96,429	497,610	41,468
銀行 借入 の金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
個人借入金	—	—	10,000	15,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25,000	2,083
未拂金	300,000	7,000	—	10,300	—	—	55,000	2,000	—	880	8,400	—	383,580	31,965	

流動負債についてみるとその54.9%は農協よりの借入金、42.2%は未払金、2.9%は個人借入金となつている。農協よりの借入はその49.3%が一般資金、40.6%が農業手形資金、残りが有畜農家創設資金であつて、一般資金による借入が最も多いのであるが、その農家毎の内容をみると、この資金の借入をおこなわない農家は4戸にすぎず、借入している農家間においても、その金額に相当の較差がある。その借入理由は牛舎建築、柿苗木、牛の飼料購入、労賃支払、稲刈資金、生活資金等生産的的目的のためのものが比較的多い。

一般資金の場合と異り、農業手形は肥料購入のため一般的に利用されているのであつて、さきあげた2戸の第2種兼業農家を除けば、すべての農家によつて利用され、しかもその金額に較差が少い。有畜農家資金は役牛購入の為利用された。

個人借入金は親戚より借入れられたものであつて、いずれも生活費或は婚礼費の為消費的に使用せられたものである。この階層における未払金7件のうち3件は村役場に対する税金未納であつた。

d) D層農家 流動資産より流動負債を差引いた金額が階層的にみて黒字になるのはこの階層だけである。この差引額が農家の資金状態の余裕を現すものとすれば、この階層の農家は最も資金的に豊であるということになるであろう。まずこの差引額を個々の農家についてみてみよう。総戸数8戸のうち5戸は赤字農家であり黒字農家は3戸である。これら2種の農家は実は性格を根本的に異にしているのであつて、黒字農家は31号が職員雑貨商、34号が産婆、自転車屋、35号がセメント瓦製造業というが如く、すべて兼業として商工業を営む第2種兼業農家である。ところが赤字農家であるところの5戸は魚行商1戸、日雇人夫4戸というが如く、兼業労働者の色彩の濃厚な農家であつて、従つてこれら赤字農家と黒字農家とは區別して考察されなければならないのである。

このことは、流動資産額にも明瞭に現れているのであつて、兼業商工業農家の方は、その金額が100,000円を越しているのであるが、兼業労働者の方は最高でも3,500円に達しない。流動負債についてもこれ程までの差異ではないが矢張り黒字農家は金額が多い。そして階層全体のみならず部落全戸の流動資産の合計額が流動負債を越した理由は、これらの黒字農家の黒字額特に35号農家の黒字408,793円である。

第6表 D層農家の資金状況（円）

農家番 項 目	28	29	30	31	32	33	34	35	計	平均
流動資産	3,305	1,045	1,050	108,875	559	1,210	101,336	532,293	749,673	93,709
農協貯金	1,305	45	920	1,375	539	1,010	1,335	93	6,623	828
郵便貯金	—	—	—	—	—	—	—	13,000	13,000	1,625
預貯金	—	—	—	10,000	—	—	—	—	10,000	1,250
銀行貯金	—	—	—	10,000	—	—	—	—	10,000	1,250
その他	—	—	—	57,500	—	—	100,000	259,200	416,700	52,088
小計	1,305	45	920	68,875	539	1,010	101,336	272,293	446,323	55,780
個人貸付金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
未收金	—	—	—	—	—	—	—	250,000	250,000	31,250
現金	2,000	1,000	130	40,000	20	200	?	10,000	53,350	6,669

流動負債	80,670	14,084	25,970	44,765	9,580	11,770	36,420	123,500	346,709	43,339	
農協よりの借入金	一般資金	35,000	—	14,000	21,155	—	5,000	30,000	—	105,155	13,144
	農業手形	15,670	14,084	11,510	13,610	8,180	6,770	6,420	3,500	79,694	9,962
	蓄農家 創設資金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小計	50,670	14,084	25,510	34,765	8,180	11,770	36,420	3,500	184,849	23,107
銀行よりの借入金	—	—	—	10,000	—	—	?	120,000	130,000	16,250	
個人借入金	—	—	—	—	—	—	?	—	—	—	
未拂金	30,000	—	460	—	1,400	—	?	—	31,860	3,983	

ところがかくの如き黒字農家も農協に対する関係では借越となつていたのであつて、このことは資金的余裕ある兼業商工業農家も農協を資金の借入機関としては利用するが、資金の蓄積機関としては利用しないことを物語るものである。兼業労働者的な農家はすでに流動資産額も少く、農協貯金の形態をとつているものが多いが、流動負債も亦農協よりの借入金が大宗をなしている。いわば農協以外には経済力がないため仲々結びつきえない階層とでも云うべきであろう。しかもそれらの農家の貯金は少額であり、資金的に農協内部で余り問題とされない階層であろう。

第6表により流動資産の農家別内訳をみると所謂兼業労働者である農家は、流動資産として零細な農協貯金を有するにすぎず、郵便貯金、銀行貯金、未収金を有するのは兼業商工業者である。

流動負債のうち農協よりの借入は53.3%、銀行よりの借入は37.5%、未払金は8.9%であつて、農協よりの借入金が最大となつている。そして農協よりの借入のうち一般資金によるものの比率は56.9%、農業手形資金のそれは43.1%であつて、一般資金の方は金額は多いけれども、その利用は兼業商工業者2戸を含めた5戸がおこなつているにすぎない。その用途は兼業労働者の場合医療費、生活費であり、兼業商工業者は商業資金である。ところが農業手形による資金の借入はこの階層に属する全戸が行つている。銀行よりの借入は31号及び35号といった兼業商工業者が利用しているのみである。

e) 現物貸借 現物貸借について直ちに注目される事は現物が米であるということ及び貸付農家がA、Bという上層農家であり、しかもその場合B層は1戸にすぎないということである。貸付総量は1石5斗であり、借入をおこなつているのはB、C、Dという階層であり、下の階層になればなるほど借入額が大きい。借入総量は4石9斗1升である。

期間は7~8月より出年秋までというのが多く、利子は一応零とされているが借りて来た米を早場米で返済するものが多い。借入理由は飯米であつて貸付の場合、借主との関係は親戚2件、知人2件である。貸付金はすべて農家であつて、経営規模2町歩以上2戸、1町歩以下2戸、1戸は不明である。

現物借入は貸付の場合と異り血縁関係のある者からか或は村役場からおこなつている。特に村役場からの借入は1石2斗1升到及んでいる。なお当然のことであるが下層農家になるにつれて、農繁期に手伝にゆくなどの労働関係のある農家よりの借入が多くなつている。借入理由は飯米としてである。

以上借入、貸付何れも米であつて、他の農作物の貸借はない。馬、牛の貸借、年雇に対するホマチ田の貸付が各1件あつた。

現物貸借は上層農家より下層農家の消費的な借入理由の下に貸出され、それに労働関係がある程度結びついているということによつて、農業金融の古い形態ではあるがしかし基本的なものを示し

ているように思はれる。

4 結 論

水稻単作農村においては端境期になると、流動負債が流動資産よりも多くなるといつた、資産的な意味での赤字農家が極めて多いことは農家資金の欠乏状態を明瞭に示すものである。1952年が豊作であつたのにも拘らず、農家の資金状態にかかる傾向の存在していることは、現在の農家が独占資本の圧力の下に次第に赤字経済に追いかまれつつあることを物語るものであつて、この赤字は端境期後に直ちにやつて来る産米収入によつて黒字に転化する為、余り眼立たない。しかし若し昨年と同様な事情であるならば、やはり来年の端境期には赤字になるのであつて、端境期になるまでは資金の赤字状態はわからないのである。

かかる農家の資金的な赤字を可能にしているものは根本的には農協資金であり、更にいえば農協資金に重要な分野を占めている農業手形資金その他国家資本、金融資本そのもの或はその後盾の下に流されている資金である。

かくて現在の農村における農業金融の主流はいうまでもなく農協を中心とする組合金融である。組合金融は農村の共同体的色彩をもつ生産関係を基盤としているのであつて、外形的には協同的な信用授受の機関の体裁を有するものである。この点都市的な個人的商工業金融とは異つている。

しかもこの外形はしさいにその内容を検討すれば当然そこには階級的性格をみることができるのであり、曾つての産業組合においては實質的に地主中心の形をとつていたのである。現在それが如何なる形をとり、又そのことが個人貸借、銀行貯金、郵便貯金、特殊金融、未収金、未払金と如何なる関連があるかについていえば次の如くなる。

農協貯金は一般的に所得貯金の性格をおびるものであつて、農協に販売した或は農協に委託して販売した代金が貯金に振替えられ、家計費あるいは農業資金として支出の必要が起れば、直ちにこの貯金の引おろしがおこなわれるものである。従つて水稻単作地帯の農家は端境期になれば極めて少ない農協預金を有することを常とする。しかも他方において農業手形その他の資金の返済は供米代金によつておこなうのが一般であるから、この端境期における農家の農協に対する資金関係は多くは借越である。

ところがこの借越にも農家の階層によつて、量的なあるいは質的な差異が存在するのであつて、A層のごときは農協貯金は極めて少いが、農協よりは一般資金、農業手形資金の借入をおこない、相当額の農協資金を利用しているのであり、他面極めて多額の個人貸付及び郵便貯金を行い、又家畜商を兼業とする農家は多額の未収金、銀行預金も有する。

農協よりの借越とはいいいながらも農協を貯蓄機関として利用する傾向の強いのはB層である。即ちこの階層は農協との金融的結びつきの強い階層であつて、貯金額も比較的多く、個人貸借についてみても借入れ額が多い。この階層は資金の不足を農協と個人借入にまちながら、銀行その他の金融機関とは貸借いずれのつながりももたない。

C層は一応旧地主層とその他の農家とを区分して考えなければならなかつた。そして前者は農協との貸借関係において借越になつているけれども、個人借入、銀行貯金、郵便貯金等も行つていたのであつて、農協よりの借越分が間接的にそのような形をとつているものと考えられる。資金状態をみても窮迫による借越とは考えられない。

ところがC層に属する外の農家は農協よりも又個人よりも借越となつていたのであつて、その借入資金によつて生活を営みうるのであろう。

全く対蹠的な2種の農家の混在する農家はD層である。この2種の農家とは1つは兼業労働者で

あり、他は兼業商工業者である。そして前者にあつては農協よりの借越とはなつてはいるものの、個人あるいは銀行との金融的なつながりを貸借何れにおいても持ちえず、農協に依存してはじめて生活を維持しうる階層である。ところが兼業商工業者も農協に対して借越になつてはいるのであるが、それは資金的な余裕がないためという訳のものではなくて、他方において銀行預金、郵便貯金、特殊金融或は未収金の形の流動資産を有しているのであり、いわば農協よりの借越になつてはいる資金は間接的にかかる形態をとつてはいるといえよう。

かくて農地解放による自作農の創設、地主勢力の後退によつて農村、特に水稲単作地帯においてはたとい個々の農家の経済力の優劣の差はあろうとも、基本的には経営規模によつて農業金融の階層的性格は特徴づけられる。勿論その場合第2種兼業農家の如きは別個に考察しなければならない。

富農層はやはり資金的な余裕を有し、中小農、貧農層は資金が欠乏している。そして曾つては高利貸の地主あるいは自作地主より中貧農層へ貸出されるといつた傾向があつたのであるが、地主に代るものとして登場してきた富農層より中小貧農層への貸出しが明確な形をとつてはいるのは現物貸付であり、資金的な関係では富農層と中小貧農層との間に国家資本、金融資本によつてバック・アップされた農協が介在することにより、農協資金が中小貧農へも貸出され、富農層の資金が商業資金、銀行預金、郵便貯金等へ流れてゆく傾向を生じている。勿論富農層が自己の農業生産を維持する為に労働力確保の裏付として中小貧農にも当然資金を流している。そして資金的な端境期に富農層他農家一般をして農協よりの借越を可能にしているものは国家資本、金融資本が農協をバック・アップしていることによるのであつて、農業手形制度はかかる資金融通のための最も典型的な形である。

なお最後に本稿は紙数の関係上やむをえず個人貸借、現物貸借、未収金及び未払金等に関する明細表を省略したことを断つておく。